

平成28年度 発達障害の可能性のある児童生徒等に対する早期・継続支援事業
(発達障害早期支援研究事業)
成果報告書(概要版)

実施機関名(大阪府河内長野市教育委員会)

1. テーマ

通常の学級における発達障害の可能性のある児童生徒等に対する
支援方法と支援体制の構築 ～安心できる集団づくりとわかる授業づくり～

2. 問題意識・提案背景

本市では、平成27年度より本事業の委託を受け、指定校3校において研究を進めてきた。その成果として、「安心できる集団づくり」においては、アセスメントシートの活用による児童生徒の実態把握を十分行うことを通して、自己肯定感を高める支援方法や支援体制が構築されつつあるといえる。また、「わかる授業づくり」においては、各校のスタンダードを作成し、基礎的環境整備と個に応じた合理的配慮を実施することについて、共通理解をすることができた。

しかし、市内小中学校を対象として実施している「通常の学級における支援の必要な児童生徒についての調査」(隔年：担任が記入し、管理職による確認を経て回答している)ものであり、発達障害の専門家チームや学識者、医師による判断ではない)において、平成26年度と平成28年度で比較すると、通常の学級で支援が必要な児童生徒数の割合は2.1%増えている。これは、指定校3校では「安心できる集団づくりとわかる授業づくり」につながる支援方法や支援体制が構築されつつあるものの、市内全体ではその取組が不十分であることが考えられる。指定校3校での実践をもとに、「通常の学級において、学習面又は行動面で困難を示すとされた児童生徒への支援体制と支援方法」をより明確にし、市内の各小中学校において「安心できる集団づくり」「わかる授業づくり」への取組を推進することが課題であると捉えている。

3. 目的・目標

本市が隔年で実施している「通常の学級における支援の必要な児童生徒についての調査」によると、通常の学級で支援が必要な児童生徒数の割合は9.8%であり、文部科学省の調査結果6.5%を超えている。このことから、個々の児童生徒の実態把握、指導内容・方法の検討を行い、学習面又は行動面で困難を示す児童生徒への支援とともに、すべての児童生徒にとってわかりやすい授業の構造化を図ることを目的とする。

また、通常の学級において発達障害の可能性のある児童生徒への支援を中心に据えた安心できる集団づくりを進めるとともに、すべての児童生徒が「わかる・できる」という実感を味わい、自己肯定感を高めることができる授業づくりを目的とする。

さらに、指定校3校における授業の構造化を実践した公開授業及び成果報告会、講演会を実施することを通して、市内幼小中学校への発信を行う。3校の実践事例をもとに、基礎的環境整備のためのスタンダード作成や効果的なアセスメントシートの活用方法等、市内での共有化を図り、本市における支援教育の充実を図ることを目的とする。

4. 主な成果

○「安心できる集団づくり」と「わかる授業づくり」のための授業の構造化
通常の学級における授業づくりのためのスタンダードを作成・活用することを通して、「わかる授業」につながる手だてが具現化された。そのことにより、共通の視点をもって授業づくりを行う体制が確立でき、授業の構造化がより進んだ。社会性測定尺度大阪

府版（H29.3 実施）の結果では、「授業がよくわかる」や「授業に主体的に取り組んでいる」について肯定的に回答した児童生徒が、小学校では約 90%、中学校では 85%となっており、すべての児童生徒が安心して参加することができる構造化された授業の成果だと言える。

○一人一人の教育的ニーズに応じるための早期発見と支援方法

「学習・行動面の状況シート」や「こどもたちのつまずきに気づこうシート」、「児童アンケート」等を活用して、主観的ではあるが数値化することで学級集団の傾向、発達障害の可能性のある児童生徒の早期発見ができるようになった。また、児童生徒をどのような視点で見ることが大切かを校内全体で共有することができ、児童生徒への肯定的な声かけや評価につながった。さらに、基礎的環境整備の上に必要な個別の支援や配慮について、特性に応じたより具体的な手立てを考えることができた。その結果、社会性測定尺度大阪府版を経年比較すると、「今の自分が好き」の項目について、肯定的な回答の割合が小中とも増加しており（長野小 5%、加賀田小 8.5%、千代田中 1.1%）、自己肯定感の高まりがみられた。自分のありのままを受け入れてもらえる安心できる集団づくりが進んでいると言える。

○指定校における取組の普及

3 校すべてにおいて公開授業、成果報告会、講演会を実施した。市内全小中学校の支援コーディネーターの参加により、取組の普及につながった。また、市内小中学校だけでなく市外小中学校や市内幼稚園等からの参加者も多数あり、幼小の連携や他市町村への発信にもつながった。

4. 指定校における取組概要

①目的

通常の学級における学習面や行動面で困難を示す児童生徒の特性を踏まえた授業の構造化と支援方法の明確化を図り、学校としての支援体制を構築する。

②目標

○通常の学級における学習面や行動面で困難を示す児童生徒の特性を踏まえた研究授業を実施し、授業の構造化について検証する。

○学習面や行動面で困難を示す児童生徒の具体的な支援方法について整理する。

③学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒の明確化

○「学習・行動面の状況シート」「こどもたちのつまずきに気づこうシート」「児童アンケート」の作成と活用により、特別の支援が必要な児童や支援の視点を明確にし、効果的な支援を行う。

○アドバイザースタッフによる巡回の活用により、児童生徒への多面的な見方につなげる。

④学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒に対する支援内容

○授業（一斉指導）における指導方法の工夫内容

- ・自校の「わかる授業づくりのためのスタンダード」を活用して授業改善につなげる。
- ・学習環境を整備し、授業の構造化（ICT 機器等を活用した教材提示の工夫、「書く・話す・聞く」の区別、授業の見通しを示す、本時の目標を明確にする、リスタートを意識する等）を行うことで、すべての児童生徒にわかる授業づくりに努める。

・児童生徒の特性に応じた指導方法の工夫

「聞く」：指示の言葉を短くする。絵や文字で示す。

「話す」：話し方のモデルを示したり、動作化を入れたりする。

ペアトークを取り入れ、話す場の設定を多くする。

「読む」：ルビをうった資料を提示する。

「書く」：ワークシートを活用し、書く量を適切にして達成感をもたせる。

「計算する」：視覚教材や具体物を提示する。

計算用紙を工夫したり、計算方法を言語化したりする。

「不注意」：1 時間の授業の中に様々な活動を取り入れ、リスタートできる場面を作る。

・授業指導案に、ユニバーサルデザインの取組を明記し、意識して授業を行う。

・肯定的評価を行い、自己肯定感を育てる。

- ・ペア学習やグループ活動など、言語活動を取り入れる。
- 児童生徒の観察記録の活用

児童生徒の成長を読み取ることができると同時に、強み（ストロングポイント）を活かした個に応じた支援（合理的な配慮）方法を見出すことができる。教員や支援者等の言動が児童生徒の自己肯定感を高め、児童生徒の意欲につながることで、観察と同時にできるだけ肯定的評価を行う。
- 放課後補充指導等の個別の指導における指導方法の工夫内容
 - ・具体的操作を通して理解を図るような教材の工夫
 - ・自己肯定感を高める取組・地域と連携した「放課後学習会」等で個別の指導
 - ・校内適応指導教室におけるＳＳＴ（ソーシャルスキルトレーニング）の実施
 - ・特別支援教育支援員による授業への入りこみ
- ⑤学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒に対する支援内容の妥当性の評価手法
 - 社会性測定用尺度（大阪府版）
 - 通常の学級における授業改善のための自己・他者チェックシート
 - 全国学力・学習状況調査児童生徒アンケート
 - 学習アンケート、学校生活アンケート及び元気度調査
 - 確認テスト
 - 学校教育アンケート調査 等
- ⑥発達障害支援アドバイザーの配置状況と活動内容及び指導件数
 - 発達障害支援アドバイザー２名（指導件数のべ 41 回）
 - ・校内研修、学年会、ケース会議への参加
 - ・授業観察と事後指導
 - ・発達検査
 - ・成果報告会での講演会 等
 - 発達障害早期支援研究員（事務整理等補佐員）の配置

アドバイザースタッフの助言、教員との連携のもと、発達障害の可能性のある児童生徒の支援、実態把握、教具の作成、資料整理等を行う。

5. 今後の課題と対応

- 「安心できる集団づくり」と「わかる授業づくり」

授業の中に様々な言語活動を取り入れ、児童生徒が互いに学び合い高め合う集団づくりに取り組んできたが、具体的な事例についての検証については進んでいない。今後も、児童生徒の実態把握に努めるとともに、集団になじみにくい児童生徒への支援の在り方についても研究をしていきたい。

また、「わかる授業づくりのためのスタンダード」を活用し、授業の構造化が進みつつあるが、教職員の入れ替わりや経験年数の浅い教員が増える中でも、「安心できる集団づくりとわかる授業づくり」に向けての授業改善が進むよう、組織的な取組の継続を図りたい。さらに、「まとめ」と「ふりかえり」の活動を充実させ、授業の構造化のさらなる定着を図りたい。
- 一人一人の教育的ニーズに応じるための早期発見と支援方法

「学習・行動面の状況シート」「こどもたちのつまずきに気づこうシート」等、アセスメントシート活用の有効性が検証できたので、支援教育の視点を、学力向上や生徒指導、特別活動など、学校全体での様々な教育活動の中で共通のものとして活用できるよう推進したい。また、それぞれのアセスメントシートとサポートブック「はーと」をつなげる手立てについても考えていきたい。

一人ひとりの特性理解はできているが、その特性に応じた効果的な支援については研究途中である。今後も、アドバイザースタッフによる継続的な助言により、その手立てを確立していきたい。
- 市内全体への共有化を図る

3校の実践から、わかる授業づくりのためのスタンダードとアセスメントシートの効果的な活用についてまとめ、支援教育からの発信だけでなく、市教育委員会が担う各担当者会議において、その効果について発信し、市全体への普及と定着に努めたい。

6. 指定校について（H29.2.1 現在）

（小学校）

指定校名：河内長野市立長野小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	136	4	120	4	121	4	111	3	128	4	168	5
特別支援学級	7		6		5		6		4		7	
通級による指導 (対象者数)	3		3		6		2		4		2	
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー		その他	計
教職員数	1	1	35	1	7	1	2	2	0		2	52

指定校名：河内長野市立加賀田小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	46	2	45	2	60	2	46	2	54	2	62	2
特別支援学級	2		1		1		1		2		0	
通級による指導 (対象者数)	0		1		1		3		1		1	
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー		その他	計
教職員数	1	1	18	1	5	1	1	0	0		1	29

（中学校）

指定校名：河内長野市立千代田中学校											
	第1学年				第2学年				第3学年		
	生徒数		学級数		生徒数		学級数		生徒数		学級数
通常の学級	180		5		206		6		229		6
特別支援学級	7				10				7		
通級による指導 (対象者数)	0				0				0		
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計
教職員数	1	1	33	1	7	1	2	1	1	6	54

7. 問い合わせ先

組織名：大阪府河内長野市教育委員会事務局

- (1) 担当部署 子ども未来部 教育指導課
- (2) 所在地 大阪府河内長野市原町一丁目1番1号
- (3) 電話番号 0721-53-1111
- (4) FAX 番号 0721-53-1198
- (5) メールアドレス education@city.kawachinagano.lg.jp